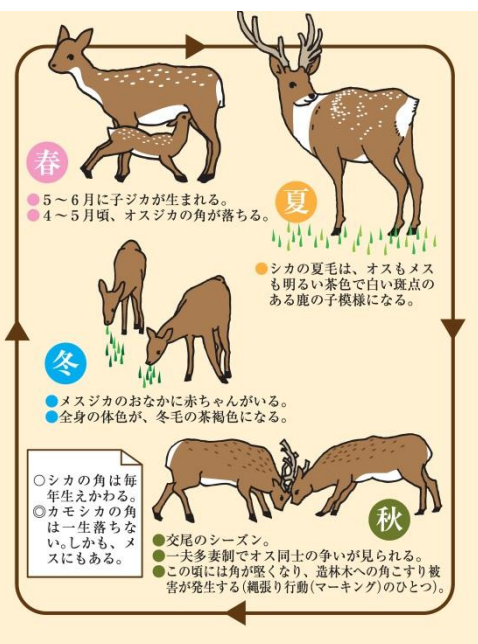


ニホンジカ

島根半島(出雲北山山地、湖北山地)において生息数の増加によって、生息域の拡大と被害発生が問題となっています。また、中国山地でも邑南町や飯南町などを中心に広島県側からの侵入によって、生息域の拡大と生息数の増加を認めています。



◇ニホンジカの生態



身体的特徴	角はオスのみが持ち、加齢と共に枝角数は増える。春に落角して、晩夏に骨質化する。
食性	草食性で、ほとんどの植物を食べる。
運動能力	高さ1.2～1.7m、幅4mを跳び越える。
繁殖能力	2歳から毎年1子を産む。増加率は年20%程度と高く、5～6年でほぼ倍増する。
寿命	最高齢はオス15歳、メス18歳程度。
行動圏	1～2kmと狭い。積雪の多い地域では、季節移動をする。

◇主な被害作物

スギ、ヒノキ、マツ類などの幼～壮齢木を、交尾期である9～11月にオスジカが樹幹への角こすりによって樹皮を大きく剥皮します。おもに斜面の山側から40～120cmの高さを加害します。他にも水稲、野菜類、果樹、タケノコなどを食害します。また、シカが高密度になると、広葉樹を樹皮の摂食によって枯らし、また採食によって下層植生が貧弱になって、森林の公益的な機能(水源涵養、土砂流出防止など)が低下する問題も発生します。



稲苗の食害



造林木の角こすり害

◇ニホンジカの被害対策

1. 田畑の被害対策

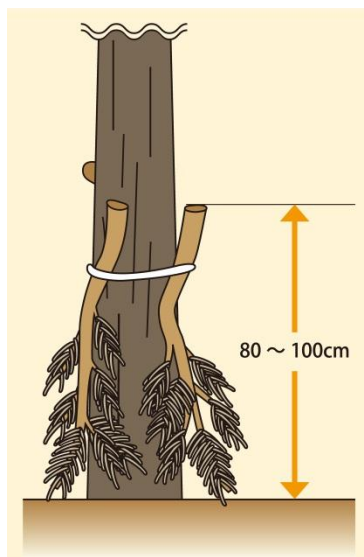
田畑や集落の周囲に金網フェンス、ステンレス線入りの網柵(高さ2m)、電気柵(高さ1.5m)などを設置します。いずれの柵も効果を持続させるには、定期的な点検・管理が不可欠です。



- ・ステンレス線入りの網柵は、下から潜り込まないようにペグでしっかりと止める。
- ・シカ防止には、視認性の良いリボン状の電線の効果が高いが、強風に弱いので設置場所に注意する。
- ・イノシシ防止も併用する場合は、下部の電線間隔を20cmに狭くして、5段張りにする。
- ・いずれの柵も集落ぐるみの設置と維持管理を行うと効率的である。

2. 造林木の角こすり害の対策

枝条巻きつけによる被害回避



- ・スギ・ヒノキ等の樹幹に間伐木の枝や枝打ちした枝を巻きつける。
- ・枝打ちされた枝条部分を下に、切り口のある枝部分を上に向けて、3～5本の枝条を巻きつける。
- ・既に被害を受けている木や間伐予定木には巻きつけない。

3. 生息数の管理

生息数が増えすぎないように計画的な捕獲を行います。捕獲には、銃器(巻き狩り)、箱ワナ・囲いワナ、脚くくりワナによる方法があります。田畑への被害対策の場合は、周辺での脚くくりワナによる捕獲が有効です。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科：鳥獣対策科

問い合わせ先：0854-76-2025 (代表)

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp